

震災を乗り越え持続可能な未来を創造する人材育成プログラム

研究開発の背景

研究仮説

学校と地域とが連携・協働する取組と学校内の取組とが全体として機能する体制を作り、カリキュラムを再構成することができれば、

- 高校卒業までに「地域への愛着、地域貢献意欲、自尊感情、自ら関わろうとする力、対話力・共感力・合意形成力」を身につけさせることができる。
- 具体的には、それぞれの力が身についたと考える生徒の割合が、
1年目50% 2年目70% 3年目80% を超えることができる

弱み

高校生の課題

- 自己肯定感の弱さ
- 失敗を回避する傾向
- 主体性の弱さ

地域社会の課題

- 東日本大震災被災地
人口流出 学力・体力低下
コミュニティ崩壊

強み

石巻地域高等教育事業団

- 石巻専修大学を中心に2市1町と圏域内県立学校で組織
- 地域課題等についての情報交換

SDGsの取組

- 東松島市：SDGs未来都市選定
地域住民が社会課題を共有

コンソーシアムの構成等研究開発の実施体制



成果と課題

目標設定シート結果

高い評価

- 共感力の変化
- 自ら関わろうとする力の変化
- 自ら働きかける力の変化

低い評価

- 地域への愛着、地域貢献意欲の変化
- 合意形成力の変化

⇒事業の取組によって本校の弱みが改善されつつある

独自アンケート結果

向上が見られた項目：主体性 協働性 探究性 社会性

次年度以降の課題

- 生徒の地域活動の推進
- 地域人材の一層の活用
- 圏域内他校との連携
- 研修で得た知見の活用
- 学びの土壌の醸成を意識した自走プログラムの設計

令和2年度の目標

育成したい地域人材

- ・ 地域改善の情熱・信念を有する人材
- ・ 役割を認識し課題に向き合う人材
- ・ 人々を巻き込み課題に取り組む人材

習得させたい資質・能力

- ・ 地域愛・地域貢献意欲
- ・ 自尊感情・自ら関わろうとする力
- ・ 対話力・共感力・合意形成力

これらの力が身に付いたと考える生徒：70%以上

主な取組状況

総合的な探究の時間

- 1 学年 職業人インタビュー
課題探究型インターンシップ
- 2 学年 地域理解講座 課題解決学習
- 3 学年 SDGs 地域課題研究

教科・科目

「研究開発完了報告書」5ページ参照

教育課程外の活動

地域支援・課題研究フィールドワーク
放課後マイプロ部 など